

社会課題解決のアイデア競う全国大会

風越学園3人

そろって入賞

所有するグラウンドに看板を取り付ける佐藤さん

E A R R E スガダイラース・旅館経営者らでつくる「W

夏の合宿に訪れるという佐藤 などで配る予定だ。

宮沢優月さん 米沢志咲さん 三浦佳音さん



駆除した鹿活用や食品ロス削減提案

独創性や表現力 高い評価

軽井沢町の幼小中一貫校、軽井沢風越学園で学ぶ宮沢優月さん(13)と三浦佳音さん(11)、米沢志咲さん(11)の3人が、社会課題を解決するアイデアを競う大会「スタートアップジュニアアワード2020」で入賞した。3人は学園の探究学習の一環で、有害鳥獣として駆除されたニホンシカの活用や食品ロス削減プロジェクトを個別に提案。独創性やプレゼンテーションの表現力が評価された。

同大会は、体験型キャリア教育事業を手掛ける民間企業バリユースフューション(東京)が主催。2回目の今回は全国から小学生の部37件、中学生の部146件の応募があった。3人は書類・動画画査を経て、3月に都内で開いた各部上位6件によるプレゼンテーションに臨んだ。

8年生(中学2年に相当)の宮沢さんは鹿肉のペットフードを提案し、優秀賞に選ばれた。1年前、動物保護団体から老犬を引き取ったのをきっかけに「保護犬」の存在を知り、「おいしい餌をあげたい」とフランス料理シェフの父親と鹿の干し肉を作って飼いに与えるなどした。宮沢さんは「今後は商品化し、ネットショップでの販売も考えたい」と話した。

6年(小学6年に相当)の三浦さんと米沢さんは、食べられる食材を廃棄する「食品ロス」をテーマにした。三浦さんは消費者と生産者の接点をつくる狙いで農産物直売所と周辺の畑を一体化して催しなどを開く「畑コミュニティアム」を提案、優秀賞を受けた。

米沢さんは生ごみを使った堆肥を開発。作り方などを紹介するインターネットサイトにつながるQRコードを人の集まる場所で周知するアイデアを披露、特別賞を受けた。